



今週のお薦め

# キャリアアウーマン・ルールズ

横江公美 著

KKベストセラーズ  
1575円/221ページ

profile

よこえ・くみ

政策、広報、研修に関するコンサルタント、「Pacific21」代表。明治大学経営学部卒、松下政経塾、プリンストン大学、ジョージ・ワシントン大学客員研究員などを経て現職。著書に「第五の権力 アメリカのシンクタンク」(文春新書)、「判断力はどうすれば身に付くのか」(PHP新書)など。

こうすれば女性は  
男社会で出世できる

評者  
本誌  
三上直行

女性がキャリアを積み、出世を勝ち取るための「戦略本」である。日本で雇用機会均等法が施行されて20年余り経った。だが、会社の意思決定権の多くは、まだ男性が握っている。女性の社会進出では日本の先を行く米国でさえ、その出世には見えざる壁(ガラスの天井)があるという。本書はそうした現実を踏まえた、本音ベースの出世論だ。

出世には仕事の実力が必要不可欠。それを著者は、二つに分けてみせる。「業務に関する能力」と「アプローチ力」だ。後者は、特に上司に対する「好感度」と、部下に対する「手柄配分力」からなる。簡単にいえば、仕事ができるだけではダメ、上司にも部下にもウケがよくなければ出世はおぼつかない、というわけだ。

著者は出世する女性のタイプを二つに分ける。「オンナ」と「オトコ」だ。オンナ・タイプはフェミニン系のファッションに身を包み、フェロモンを戦略的に振りまきつつ、男性上司の引きで出世の階段を上っていく。一方、オトコ・タイプは何よりも仕事第一。フェロモンこそ振りまかないが、どこか愛嬌がある。男性上司にしてみれば、一生懸命にがんばる愛娘を見守る心境だろうか。

本書には、米国滞在の経験をもとにした「キャリア・ファッションのコード」といった記述もある。ノウハウ本とエッセイの中間といった趣きで、文章構成や図解など若干整理されていない部分もあるが、ビジネスウーマンにとっては役立つ情報が散りばめられている。

とはいえ、本書は「男性への媚び方」を書いたものではない。根強い男社会を軽やかにすり抜け、第一線で活躍する女性が増えることが社会のあり方を変えるという、女性への応援こそが著者の思いだろう。

著者の思いだろう。

**短評**  
富裕層はなぜ、YUCASEE(ゆかし)に入るのか  
高岡壮一郎 著

わが国には現在147万人の富裕層が存在し、日本の人口の約100人に1人が純金融資産1億円以上を持つといわれている。しかし、彼らの実態と本音はなかなか見えてこない。

本書では、秘密に包まれた富裕層の真実を、「YUCASEE(ゆかし)」という、純金融資産1億円以上の富裕層だけが集まるネットワークコミュニティを通して解き明かしている。

ゆかし会員がネットコミュニティ上で交わっているのは「ブラック・カードのマニアックな使い方」「数十億円のウイーン・コンチエルトハウス命名権」「創業400年、有名レストランのオーナー権」「永住権を取るならどこの国がよいかなど、想像をはるかに上回るおカネの使い方」これである。

専門知識や起業によって成功した新しい富裕層たちは、何を求めているのか。その答えが見えたとき、現代社会の新富裕層の姿が浮き彫りになる。

幻冬舎メディアコンサルティング  
1680円

**短評**  
KY式日本語  
北原保雄 編著 / 「もっと明鏡」委員会編

2007年、当時の安倍晋三首相率いる内閣を称してKY。KYとは「空気読めない」という意味である。それからか、女子高生の間で使われていた、こうしたローマ字式略語がサラリーマンの間でも使用されるようになっていく。

「KYくらいなら知っている」というお父さん。それでは娘さんから、「ATM」といわれたら……。

ATMとは銀行にある機械ではなくて、「アホな父ちゃんもついたらへん」。ダメ出しの言葉である。本書はこうした略語をたくさん収録している。

さすが漢和辞典などの老舗出版社の本だけあって、YM(やる気満々)である。ローマ字式略語の索引が付いているのもCB(ちょー便利)すまません、勝手にこちらが作りました。日本語は生きている。ローマ字式略語の老舗であるNHKは、「日本食料協会」になってしまった。SMは「車内メーク」に。社員食堂で女性社員からAMといわれたら、どうしよう。

大修館書店  
714円